



令和7年度 長崎国際大学
人間社会学部 健康管理学部 入学試験問題
一般選抜A日程 (2/4)

国 語

(100点 60分)

注 意 事 項

- 1 解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、21 ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マーク（●印）しなさい。

① 受験番号欄

受験番号（数字）を記入し該当する欄にマーク（●印）しなさい。
正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入しなさい。

- 4 問題は、マーク選択式と記述式があります。

マーク選択式は、解答用紙の解答欄にマーク（●印）しなさい。

例えば

10

 と表示されている問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号10の解答欄③の欄にマークしなさい。

（例）

解答 番号	解 答 欄			
	①	②	③	④
10			●	

記述式の解答は、指定された解答用紙に記入しなさい。

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 6 試験終了後、問題冊子は机上に残しておきなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問8）に答えよ。なお記述式の問いは、記述式解答用紙に解答しなさい。

【著作権上の理由等の諸事情により非公開】

（鈴木孝夫『閉された言語・日本語の世界』新潮選書による）

問1 二重傍線部 a～d のカタカナに該当する漢字を、次の各群の①～④の中から一つずつ選べ。

a ハンシヤ 1

- ① ロケットをハツシヤする
- ② シヤフツ消毒する
- ③ 文献をフクシヤする
- ④ シヤコウカーテンを買う

b ユウレッツ 2

- ① ジユウを求めて戦う
- ② 部活動にカンユウする
- ③ 彼はユウジユウ不断だ
- ④ 結果に一喜イチユウする

c チョウブツ 3

- ① 人前で話すのはキンチョウする
- ② テチョウに予定をメモする
- ③ 試合がエンチョウ戦に突入する
- ④ 山のチョウジョウまで登る

d セツボウ 4

- ① 光がクツセツする
- ② 事態がセツパクする
- ③ 栄養をセツシユする
- ④ セツチャク剤を買う

問2 文中の空欄 **A**、**B** に入る語として最も適当なものを、次の各群の①～④の中から一つずつ選べ。

A **5**、**B** **6**

A ① それなら ② それでも ③ このように ④ それどころか

B ① むしろ ② さらに ③ あるいは ④ また

問3 文中には次の一文が抜け落ちている。これを文中の空欄「**I**」～「**IV**」のどの箇所に補えばよいか。最も適当なものを選び、次の①～④の中から一つ選べ。 **7**

つまりそれより仕方がないという受けとめ方での選択が行われるのである。

① 「**I**」
② 「**II**」
③ 「**III**」
④ 「**IV**」

問4 文中の空欄

C

に入る、次の熟語の反義語を、漢字二文字で記入せよ。

あ

否定

問5 傍線部1「自分にとって嫌なこと、本当はしたくないことを強制される場合でさえも、利益が多いからそれをするのだ

と言える」とあるが、これに**該当しない例**を、次の①～④の中から一つ選べ。

8

- ① 夕食に嫌いな食材が出たが、食べないと母親に叱られるので、我慢して残さず食べた。
- ② 恋人にお金を貸してほしいと頼まれたが、断って嫌われるよりはいいと思って、お金を貸した。
- ③ 来週、試験があるが、点数が悪くて先生に呼び出されるのは嫌なので、頑張つて勉強している。
- ④ 上司に面倒な仕事を頼まれたが、それを行うことは自分の役割であると感じ、引き受けた。

問6 傍線部2「一度海外に出てしまうと、日本語を保持して行くか、それとも他の言語に傾斜して行くかということは、明らか

に選択の問題となる」とあるが、これはどのようなことか。最も適当なものを次の①～④の中から一つ選べ。

9

- ① 日本では自然に日本語が身につけ使っているが、海外では日本語が自然に身につくことはなく、自然のなり行きに逆らい、子供に日本語を身につけさせるかどうか選択しなければならないということ。
- ② 日本では自然に日本語が身につけ使っているが、海外ではその国の言語を使用するのが当然であるため、子供が不都合を感じないように、その国の言語を身につけさせなければならないということ。
- ③ 日本では自然に日本語が身につけ使っている。一方で、海外では日本語が自然に身につくことはないから、子供は自分が日本語を使用するかどうかを選択しなければならないということ。
- ④ 日本では自然に日本語が身につけ使っている。一方で、海外では日本語が自然に身につくことはないが、その代わりに外国語が身につくので、日本語が必須ではなくなるということ。

問7

傍線部3「私はこの人たちの言動を、日本国内に住んでいる私たち自身の、もともと日本語に対してひそかに抱いている否定的な心的態度が、ある極限的な条件の下で露呈したものに他ならないと考えたい」とあるが、これはどのようなことか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

10

- ① 子供の日本語にまで手が廻らないという海外在住の日本人の言動は、日本国内に住む私たちの、海外ではその国の言語を使用するべきだという思い込みが、言語の選択を行わなければならない状況下で、表出したものであるということ。
- ② 子供の日本語にまで手が廻らないという海外在住の日本人の言動は、日本国内に住む私たちが日本語に対して潜在的に抱いている劣等感が、言語の選択を行わなければならない状況下で、表出したものであるということ。
- ③ 子供たちの日本語教育のために日本語学校の設立を唱える海外在住の日本人の言動は、日本語はかけがえのないものだという認識が、言語の選択を行わなければならない状況下で、表出したものであるということ。
- ④ 子供たちの日本語教育のために日本語学校の設立を唱える海外在住の日本人の言動は、日本国内に住む私たちの海外ではその国の言語を使用するべきだという思い込みが、言語の選択を行わなければならない状況下で、表出したものであるということ。

問8 本文の内容に合致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

11

- ① 筆者は、人間の全ての行動は利益不利益の計算を含んでいると考えているが、多くの日本人が海外生活の過程において、子供に日本語を強制しなくなる事実は、選択の結果ではなく自然にそうなったと述べている。
- ② 筆者は、私たちの日常行動は選択と決断の連続であると述べているが、日本に住んでいる日本人が日本語を使うことは、選択の結果ではなく、日本語以外に使うものがないから日本語を使っていると述べている。
- ③ 筆者は、海外在住の日本人にとって、子供に日本語を習わせることは日本語に対する執着であると考えており、自然のなに行き逆らうことになるため、無理に日本語を習わせるのはやめたほうが良いと述べている。
- ④ 筆者は、外国で暮しながら日本語を保持していくことには物理的に明らかな障害があると考えているが、日本人であるか
らには、多少の犠牲を払ってでも子供に日本語を教える努力をしなければならぬと述べている。

第2問

次の文章は、道尾秀介の小説『光媒の花』の一節である。主人公の姉は小学校の教師で、体調を崩して入院している。主人公は、小学六年生の時に父を亡くしているが、父の死期が近くなるにつれて別人のように生き生きとし始めた母を憎んでおり、それ以降母のことを一方的に嫌っている。本文は、その主人公が姉の見舞いに病院に行くところから始まる部分である。本文を読んで、後の問い（問1～問8）に答えよ。なお記述式の問いは、記述式解答用紙に解答しなさい。

【著作権上の理由等の諸事情により非公開】

（道尾秀介『光媒の花』集英社文庫による）

問1 波線部ア、イ、ウの本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中から一つずつ選べ。

ア 右往左往している

12

① この後どこへ行こうか考えている

② じつと止まっている

③ 右を見たり左を見たりしている

④ 混乱してあちこち動いている

イ 緩慢に

13

① びっくりして

② 怒った様子で

③ ゆっくりと

④ 素早く

ウ 殻に閉じこもって

14

① 家族との交渉を避けて

② まったく口を利かないで

③ 部屋の中から鍵をかけて

④ 父を亡くした悲しみに浸って

問2 文中の空欄

A

B

に入る語として最も適当なものを、次の各群の①～④の中から一つずつ選べ。

A 15

B 16

A ① 凝らす

② そらす

③ 散らす

④ 慣らす

B ① 今はまだ

② 要するに

③ しかしながら

④ それを言えば

問3 傍線部1「頭の中に、空白が降りた」とあるが、このときの「自分」の心情を説明したものととして、最も適当なものを、次

の①～④の中から一つ選べ。

17

- ① 十五年前の家族の絵を見て、姉と自分が笑っているのに、母だけが少し緊張気味にこちらを見ている理由に思いあたり、母への態度を反省している。
- ② 十五年前の家族の絵を見て、母が涙を流しながら自分を見つめていることに気づき、今まで自分が母に対して取ってきた態度に嫌気がさしている。
- ③ 絵の中の母が、自分を見つめて涙を流しているように見え、現実には絶対にあり得ないことが起きて、頭の中がひどく混乱している。
- ④ 絵の中の母が、自分に何かを訴えるようにひと筋の涙を流しているように見え、自分の見間違いであってほしいと強く望んでいる。

問4 傍線部2「カタツムリの悪戯」いたずらとあるが、これはどのような意味か。本文中の言葉を用いて、三五文字以内で述べよ。

い

問5 傍線部3「そうしなければ、自分の感情に生き埋めにされそうで怖かった」とあるが、これはどういうことか。最も適当な

ものを、次の①～④の中から一つ選べ。

18

- ① 父が亡くなったということが、当時小さな子供だった自分には理解できず、父親不在の哀しさや寂しさを、母にぶつけざるを得なかったということ。
- ② 父が亡くなった原因は母の変化にあると心から信じ込まなければ、父がいなくなった哀しさや寂しさは、永久に癒されそうになかったということ。
- ③ 父が病気で亡くなったという現実を直視しなくて、それを母の変化のせいにすることで、父の死による哀しみや寂しさからなんとか脱出したということ。
- ④ 父が亡くなった哀しさや寂しさは、一人で抱え込んで我慢するには大きすぎ、母の変化のせいしなければ自分を保つていられなかったということ。

問6 傍線部4「大切なこと」とあるが、これはどのようなことか。具体的な内容を一つ挙げ、本文中の言葉を用いて、三五文字

以内で述べよ。

う

問7 傍線部5「長い針を刺し込まれたように、胸の奥に痛みが走った」とあるが、この時の「自分」の心情を説明したものと

して最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

19

① 今まで自分が一方的に母を避けてきたとはいえ、自分の息子の姿を見かけて逃げるように立ち去った母の態度に、プライドを傷つけられ、強い憤りを感じている。

② 今までの自分の母に対する態度を振り返り、謝罪したいと思っていたところに現れた母が、自分を避けるような態度をとり、関係修復の難しさを感じて辛くなっている。

③ 病室に息子の姿を認めて何も言わずに立ち去った母に対し、何か自分から声をかけなければと焦りつつ、その場から動くこともできない自分に苛立ちを感じている。

④ 病室に息子の姿を認めて何も言わずに立ち去った母に対し、今まで自分が母にいかにもひどいことをしてきたのか実感し、罪悪感に押しつぶされそうになっている。

問8

この文章の内容と表現の特徴についての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

20

- ① 比較的短い文を中心に、畳みかけるような調子で文章が構成されており、現実から目を背けたがっている主人公の心情を読者が追体験できるように配慮されている。
- ② 全体的に、時系列に沿って事実を客観的に淡々と述べるような文体となっており、主人公にも姉にも母にもある程度の距離を置いて、感情移入しないように書かれている。
- ③ 基本的に、主人公の目を通して、様々なできごとや母への感情が語られており、母や姉が主人公に対してどのような感情を抱いているのかは、読み取りにくい。
- ④ 会話文以外の情景描写が豊富に描きこまれており、登場人物たちが現在置かれている状況を、読者が俯瞰的に眺めることができる仕掛けが多数施されている。

第3問

資料Aと資料Bは総務省の「令和3年度社会生活基礎調査 生活時間及び生活行動に関する結果 結果の要約」から抜粋したものである。資料を見て次の各問（解答番号）に答えよ。

21

24

資料A

X

	仕事のある日（出張・研修などを除く）		
	人口 (千人)	うちテレワークをした人口	
		人口 (千人)	テレワーク 実施割合 (%)
総数	52867	3542	6.7
15～24歳	3570	109	3.1
25～34歳	8587	847	9.9
35～44歳	10969	965	8.8
45～54歳	13533	837	6.2
55～64歳	9467	564	6.0
65歳以上	6742	219	3.2

資料Aは、「令和3年度社会生活基礎調査 生活時間及び生活行動に関する結果 結果の要約」2頁・表3を抜粋・引用。

資料B

Y

(時間:分)

	総数		うち25～34歳		うち35～44歳		うち45～54歳	
	テレワーク (在宅勤務)	テレワーク 以外	テレワーク (在宅勤務)	テレワーク 以外	テレワーク (在宅勤務)	テレワーク 以外	テレワーク (在宅勤務)	テレワーク 以外
睡眠	7.32	7.14	8.06	7.25	7.18	7.17	7.16	6.59
身の回りの用事	1.09	1.19	0.56	1.13	1.07	1.18	1.17	1.20
食事	1.35	1.26	1.30	1.15	1.29	1.18	1.40	1.24
通勤・通学	0.04	1.07	0.03	1.15	0.05	1.08	0.05	1.08
仕事	8.37	8.24	8.59	9.06	8.50	8.50	8.42	8.43
学業	0.02	0.05	0.02	0.02	0.00	0.03	0.03	0.02
家事	0.51	0.52	0.36	0.27	0.56	0.57	1.08	1.06
介護・看護	0.02	0.01	0.01	0.00	0.02	0.01	0.03	0.01
育児	0.17	0.07	0.13	0.15	0.41	0.18	0.09	0.04
買い物	0.09	0.10	0.10	0.06	0.07	0.08	0.08	0.11
移動 ¹⁾	0.10	0.09	0.05	0.08	0.11	0.09	0.09	0.09
テレビ ²⁾	0.58	1.06	0.22	0.28	0.37	0.39	1.10	1.03
休養・くつろぎ	1.30	1.22	1.30	1.31	1.31	1.21	1.24	1.21
学習・自己啓発 ³⁾	0.10	0.04	0.15	0.04	0.10	0.03	0.06	0.03
趣味・娯楽	0.35	0.19	1.00	0.32	0.35	0.18	0.23	0.13
スポーツ	0.09	0.04	0.06	0.03	0.08	0.03	0.09	0.04
ボランティア ⁴⁾	0.00	0.01	-	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00
交際・付き合い	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.01	0.03
受診・療養	0.02	0.02	0.01	0.01	0.04	0.01	0.01	0.01
その他	0.05	0.05	0.02	0.05	0.06	0.04	0.05	0.05

1) 移動(通勤・通学を除く)

2) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌

3) 学習・自己啓発・訓練(学業以外)

4) ボランティア活動・社会参加活動

資料Bは、「令和3年度社会生活基礎調査 生活時間及び生活行動に関する結果
結果の要約」3頁・表4を抜粋・引用。

問1 資料Aと資料Bの

X

と

Y

には、それぞれ資料のタイトルが入る。二つのタイトルの組み合わせとして最も

適当なものを、①～④の中から一つ選べ。

21

- ① 「年齢階級別テレワークをした人口（二〇二二年）―平日・有業者」と「所得階級、テレワークの実施の有無別生活時間（二〇二二年）―平日・有業者」
- ② 「年齢階級別テレワークをした人口（二〇二二年）―平日・有業者」と「年齢階級、テレワークの実施の有無別生活時間（二〇二二年）―平日・有業者」
- ③ 「職種別テレワークをした人口（二〇二二年）―平日・有業者」と「年齢階級、テレワークの実施の有無別生活時間（二〇二二年）―平日・有業者」
- ④ 「年齢階級別テレワークをした人口（二〇二二年）―平日・有業者」と「性別、テレワークの実施の有無別生活時間（二〇二二年）―平日・有業者」

問2 資料Aから読み取れることとして間違っているものを、次の①～④の中から一つ選べ。

22

- ① 平日で仕事があった有業者のうち、テレワークを実施した割合が二番目に低いのは、六五歳以上である。
- ② 平日で仕事があった有業者のうち、テレワークを実施した人口が最も少ないのは、一五～二四歳である。
- ③ 平日で仕事があった有業者のうち、テレワークを実施した人口の割合は、全体の七パーセントに満たない。
- ④ 平日で仕事があった有業者のうち、テレワークを実施した割合が最も高いのは、三五～四四歳である。

問3 資料Bから読み取れることとして間違っているものを、①～④の中から一つ選べ。

23

- ① テレワークを実施した二五～三四歳で、テレワークを実施しなかった人と比較して最も時間が長くなっているのは睡眠である。
- ② テレワークを実施した人はテレワークを実施しなかった人に比べ、通勤・通学時間が約一時間短い。
- ③ テレワークを実施した三五～四四歳で、テレワークを実施しなかった人と比較して最も時間が長くなっているのは趣味・娯楽である。
- ④ テレワークを実施していた人はテレワークを実施しなかった人に比べ、睡眠時間が一八分間長い。

問4 資料Aと資料Bから読み取れることとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

24

- ① 二〇二二年に仕事のある日にテレワークを実施した人口割合は六・七パーセントであり、テレワークを実施した人は実施しなかった人に比べて、通勤・通学や身の回りの用事の時間が長く、睡眠や趣味・娯楽の時間が短い。
- ② 二〇二二年に仕事のある日にテレワークを実施した人口割合は六五歳以上が最も低く、テレワークの実施有無で比較すると、テレワークを実施した人は年齢階級が上がるごとに、仕事の時間が長くなっている。
- ③ 二〇二二年に仕事のある日にテレワークを実施した人口割合は二〇代後半から三〇代前半が最も高く、テレワークの実施有無で比較すると、同年齢階級でテレワークを実施した人は睡眠、趣味・娯楽の時間が長くなっている。
- ④ 二〇二二年に仕事のある日にテレワークを実施した人口割合は三五歳～四四歳が最も高く、テレワークを実施した人は実施しなかった人に比べて、睡眠や食事の時間が長く、仕事や学業の時間が短い。